

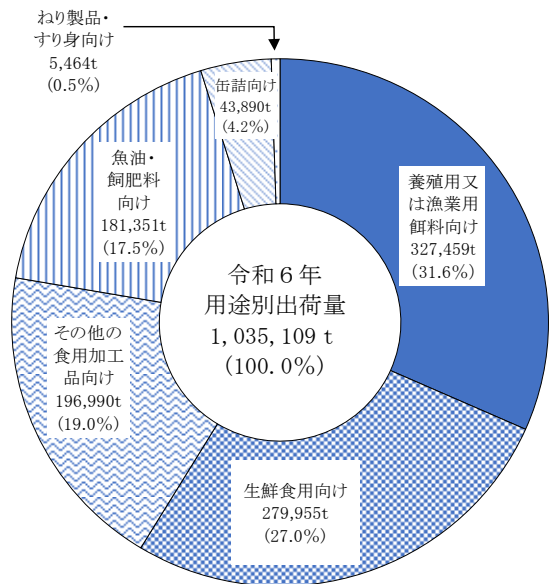
【調査結果の概要】

1 用途別出荷量及び出荷量割合

令和6年の水産物の出荷量（32漁港・19品目）は103万5,109tとなった。

用途別にみると、養殖用又は漁業用餌料向けが32万7,459t（出荷量割合31.6%）で最も割合が高く、次いで生鮮食用向けが27万9,955t（同27.0%）となった。

図1 用途別出荷量及び出荷量割合
（32漁港・19品目）



注：統計数値及び構成比については、表示単位未満の数値を四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある（以下同じ）。

表 用途別出荷量及び出荷割合（32漁港・19品目）

品目	計	生鮮食用向け	ねり製品・すり身向け	缶詰向け	その他の食用加工品向け	魚油・飼肥料向け	養殖用又は漁業用餌料向け
出荷量（t）							
合計	1,035,109	279,955	5,464	43,890	196,990	181,351	327,459
生鮮品計	861,757	204,070	5,464	40,396	103,017	181,351	327,459
冷凍品計	173,352	75,885	-	3,494	93,973	-	-
出荷量割合（%）							
合計	100.0	27.0	0.5	4.2	19.0	17.5	31.6
生鮮品計	100.0	23.7	0.6	4.7	12.0	21.0	38.0
冷凍品計	100.0	43.8	-	2.0	54.2	-	-

○ 「用途別出荷量」とは、調査区内の卸売市場において、せり、入札、相対等によって引きさらされた水産物（搬入量（調査区外の漁港等から搬入されたもの）及び冷蔵庫から出庫された量は除く。）の最終的な用途別の出荷量である。

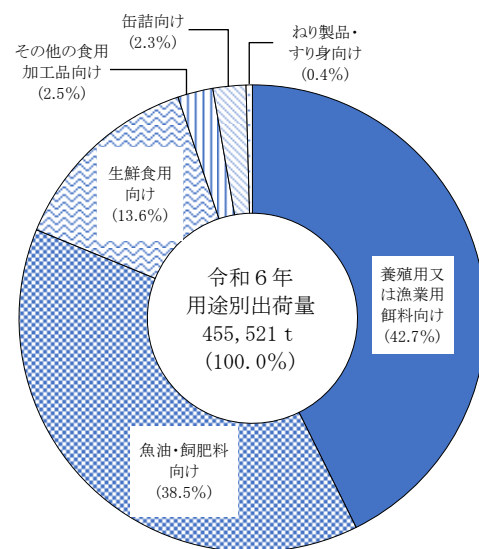
2 主要品目の出荷量割合（出荷量の上位品目）

(1) 生鮮品

ア まいわし

用途別にみた出荷量割合は、養殖用又は漁業用餌料向けが 42.7%で最も高く、次いで魚油・飼肥料向けが 38.5%となった。

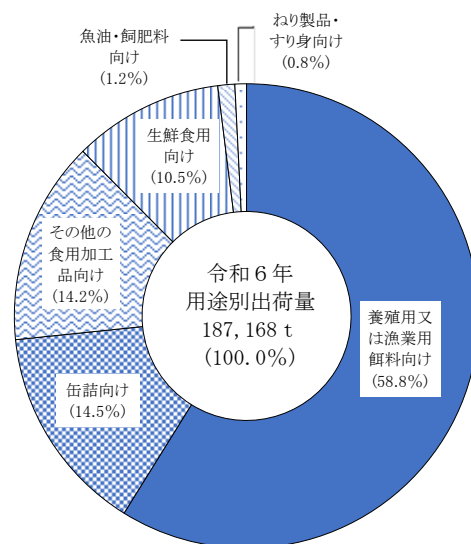
図2 まいわしの用途別出荷量割合



イ さば類

用途別にみた出荷量割合は、養殖用又は漁業用餌料向けが 58.8%で最も高く、次いで缶詰向けが 14.5%となった。

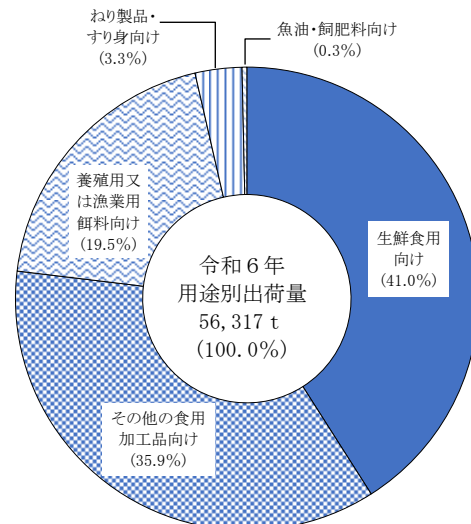
図3 さば類の用途別出荷量割合



ウ まあじ

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが 41.0%で最も高く、次いでその他の食用加工品向けが 35.9%となった。

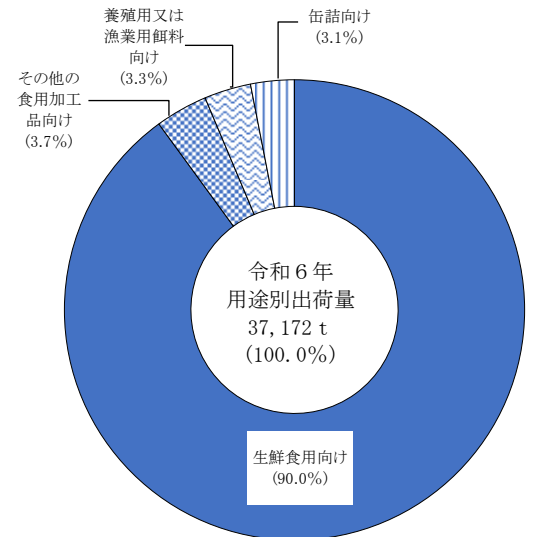
図4 まあじの用途別出荷量割合



エ かつお

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが 90.0%で最も高く、次いでその他の食用加工品向けが 3.7%となった。

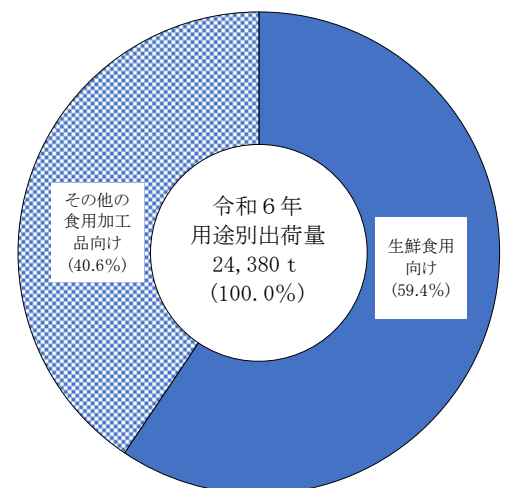
図 5 かつおの用途別出荷量割合



オ ぶり類

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが 59.4%で最も高く、次いでその他の食用加工品向けが 40.6%となった。

図 6 ぶり類の用途別出荷量割合

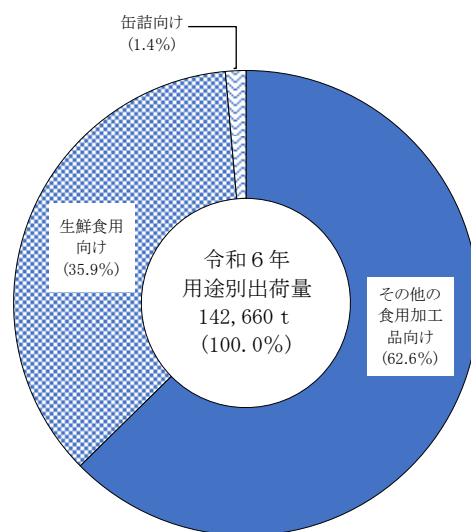


(2) 冷凍品

ア かつお

用途別にみた出荷量割合は、その他の食用加工品向けが 62.6%で最も高く、次いで生鮮食用向けが 35.9%となった。

図 7 かつおの用途別出荷量割合



イ きはだ

用途別にみた出荷量割合は、生鮮食用向けが 70.6%で最も高く、次いでその他の食用加工品向けが 21.0%となった。

図 8 きはだの用途別出荷量割合

